



# Volunteer network

主任神父様  
 信徒会長様  
 教区ボランティア・ネットワークの皆様

ボランティアの小さな体験。

「そんな風にして、一緒にいてくれるだけで…」



## 新潟市亀田の「わかばの家」は

障害をもつ青年たちのためのデイケアの家です。私はそこでボランティアとして、毎週火曜日午前中を過ごします。

ここに来るようになったきっかけは、

地域の人々を知りたいと思い、区の福祉協議会主催のボランティア入門講座に参加し、その中に「わかばの家の皆さんといっしょに交流しましょう」というプログラムがあったことに始まります。その日、「もし手芸ができる人がいたら、教えなくてもいいからこの若者たちといっしょにいて、仕事をしてくださるだけでもいいのですから来てください」との職員さんからの呼びかけがありました。それなら私でもできると思い参加することを申し出ました。

## 若者たちは、力に応じて

いろいろな作業をしています。私のいることになった部屋は手工芸室というところで、商店から注文を受けたボール紙の箱を組み立てる人、雑巾にする布を切る人、アイロンをかける人、毛糸の小鳥を作る人などがいます。私はその中にいて、ゴムテープの輪のまわりにモヘアの毛糸の飾りをつけ、女の人が長い髪の毛をまとめるためのものをつくっています。

## 私の前にはJさんという青年が

黙々と牛乳パックの箱をはさみで切り刻んで

います。これは和紙を再生するためだそうです。Jさんが話すのを私は聞いたことがありません。私も黙って興味深くあたりを観察しながら、かぎ編みの仕事をしているのですが、こんなことで私は役に立っているのかな、などと考えていました。

## 一つ出来上がって糸を切るため

ハサミをとりに行こうとしたのですが、前にJさんが丁度ハサミを持っているので、糸を切ってくださいと言って差し出して、真中をチョキンと切ってもらいました。しばらくして、もうひとつ出来上がったので、また同じようにJさんに切ってもらいました。

## やがて11時になり

帰る時間なので、私はいつものように立ち上がって大きな声で「皆さん、さようなら」といいました。その時Jさんが目の前に大きな手を差し出したのです。とっさに握手をしようということだと分かり、手を握り返しましたが、私はすっかり感動していました。そして、Jさんはもう一度手を差し出しましたので、私たちはもう一度握手しました。

## それを見ていたのか

責任者の職員の方が「そんな風にして、いてくださるだけでいいのですよ。」と言ってくださいました。本当に小さいことでしたが、これは私には最大の喜びで神様からの光のように思えました。

(A)

新潟教区ボランティア・ネットワーク  
 教区本部 事務局長 大瀧浩一  
 窓口 佐久間香子



(ボランティア・ネットワーク登録数 69人 + 9グループ)